

2020年12月30日
株式会社フィスコ (3807 JASDAQ)

フィスココイン(FSCC)スタートアップコンテスト世界同時募集 ～FSCC 経済圏のグローバル化とキャッシュフロー多元化を推進～

株式会社フィスコ(JASDAQ 上場、証券コード「3807」、本社:東京都港区、代表取締役社長:狩野仁志、以下、「フィスコ」)は、フィスココイン(以下「FSCC」)を活用する、社会のプラットフォームインフラとなるようなサービスやトータルシステムの公募「フィスココイン(FSCC)スタートアップコンテスト」を、全世界に向けて開始しましたので、お知らせいたします。

■コンテストの目的

- ・FSCC 経済圏の拡張。
- ・FSCC の価値向上。
- ・FSCC のグローバルな知名度向上。

■募集条件

- ・ホワイトペーパーでの提出。
- ・FSCC を基盤トークンとしたキャッシュフロー(CF)を創出するスマートコントラクト。
- ・または、FSCC の価値向上に資するスマートコントラクト。
- ・ホワイトペーパーの内容について、システム構築できるスキルやリソース保有(グッドアイデア賞(後述)を希望する方は除く)。
- ・グッドアイデア賞(後述)をご希望の方は、システム開発のリソースが無くとも参加可能。
- ・サービスやシステムが利用される国の法令を遵守していること。

■選考ポイント

- ・新規性を重視。
- ・居住地国固有の文化や風習に即したサービス。
- ・クロスボーダー取引やグローバルなビジネスのボトルネック解消。
- ・既存の DApps、DeFi(※)サービスを補完。
- ・既存金融システムの代替サービス。
- ・自社のサービスをお持ちの方における FSCC と自社サービスとの連携。
- ・FSCC 経済圏の構築に役立ち、使い始めると FSCC が継続利用されるもの。
- ・利用者増のインセンティブが内包されていること。

※DApps とは Decentralized applications の略語。ブロックチェーンを利用した管理者不在の分散型アプリケーションです。DeFi とは Decentralized Finance の略語。金融分野における DApps。非中央集権の暗号資産交換所や、デリバティブ、レンディング等のサービスがあり、最も注目される分野の一つです。

フィスコでは、FSCC の決済手段としての使用はもちろん、FSCC を所定の期間ロックアップすることでリワードを得ることができる仕組み、発表済みの事業アプリの深化や CF を持つ複数の事業アプリを開発していくことを志向しています。今回のコンテストは、それを加速させるものであることが望ましいと考えています。開発されるサービスやトータルシステムについては、収益性が考慮され、事業継続性が確保できることも必要と考えておりますが、営業活動やプロモーションなどフィスコのサポートで解決可能であれば、コンテストへの応募の必要要

件としません。開発されるサービスやトータルシステムによって、どのくらいの FSCC が流通、または継続保有されるのかが重点審査項目になりますので、自らも使ってみたくなる合理的な理由、あるいは紹介プログラム等、利用者増のインセンティブとなるような仕組みを明示して頂けますようお願いいたします。

■応募者のメリット(希望者のみ)

- ・フィスコ、FSCC コミュニティでの発表(発表範囲は応相談)。
- ・FSCC のアンバサダーの就任(FSCC 情報の発信を担っていただく役割の範囲は応相談)。
- ・フィスコグループからの仕事の発注や別プロジェクトでの協業の可能性。

■スケジュール

- ・応募期間:2021 年 1 月 1 日～同年 3 月 15 日
- ・審査期間:2021 年 1 月 16 日～同年 3 月末日(※)
- ・結果発表:2021 年 4 月 5 日

※審査の途中でも案の改善は可能です。フィスコから改善をお願いする場合がございます。応募者から提出されたホワイトペーパーに基づき審査を行い、結果発表を経て、実際の開発に着手していただきます。

■賞の内容

- ・優勝:FSCC3,000 万円相当(※)
- ・準優勝:FSCC1,000 万円相当(※)
- ・グッドアイデア賞(1 名):FSCC100 万円相当(※※)
- ・特別賞(1 名):FSCC10 万円相当(※※※)

応募いただいたアイデアや納品されたシステム等に係る知的財産権その他の権利関係は、全てフィスコに帰属いたします。応募の内容が極めて優秀であれば、受賞に対して付与する FSCC 枚数を増やす可能性があります。また、優秀なアイデアが複数あれば、賞そのものを増やすことも検討いたします。

(※)システムが納品された後に送金されます(いずれの賞も原則として源泉所得税をマイナスした額)。

(※※)グッドアイデア賞は、ホワイトペーパーの提出までとし、システム開発とその納品は伴いません。新規性のある提案をしていただいた方に対する謝礼となります。システム開発のリソースがない方でも、アイデアだけで気軽に応募できます。仮に、優勝や準優勝に勝ち進んだ場合、フィスコ側がシステムリソースの提供などサポートいたします。

(※※※)各国の法律に準拠していれば、奇想天外の面白いアイデアをなんでも受付いたします。こちらもシステム開発および納品は伴わず、ホワイトペーパーの提出までとします。

■FSCC の技術仕様

FSCC のコントラクトアドレス、ソースコード等の情報は [Etherscan](#) 上でご確認ください。

■応募資格

・国籍は問いませんが、KYC は必須となり、チームメンバー全員のパスポートの写しと各メンバー本人の写真が必要になります。

■応募先および問合せ先(担当: 中村)

電話番号: 03-5774-2440

メールアドレス: inquiry@fisco.co.jp

フィスコは、FSCC がグローバルに活用され、DApps の弱点の克服を可能とする、全く新しい非中央集権暗号資産となることを目指しております。

2020年7月31日付「[FISCO Decentralized Application Platform 設計概要書](#)」に開示したとおり、スマートコントラクトを利用した株主総会の議決権行使アプリケーション、株主優待アプリケーションから創造されるCFを、FSCCの価値の裏付けとして機能するような仕組みを構築しております。現在、世の中に存在する全てのDAppsは、単一のビジネスから生まれるCFをベースに構築された仕組みであり、FSCCも同様の仕組みではありましたが、今回の「スタートアップコンテスト」により、FSCCは裏付けになるCFを複数のビジネスに拡張することを企図しております。また、全世界に向けての公募であるため、FSCCが日本国内という枠を飛び越え、グローバルなCFを創り出す第一歩と考えております。当然、これだけに限らず、フィスコやFDAP(FISCO Decentralized Application Platform: フィスコがDAppsを所有する目的の専用子会社)でも、CFの多元化とグローバル化を進めていく予定です。なお、今月のHotbitやFINEXBOX(※)のFSCC上場を通じ、グローバルな暗号資産業界でのFSCCの知名度向上を図ってまいりました。12月24日時点のHotbitの売買代金は約41万ドルと、株式会社Zaifが運営する日本国内の暗号資産取引所「Zaif Exchange」(以下「Zaif Exchange」)の同日のFSCCの取引高約1,000万円を大きく上回り、またHotbit内の通貨取引量ランキングではFSCC/ETHで1,645ペア中475位、FSCC/USDTで同477位となっており、FSCCの海外での非常に高い人気を物語っていると言えます。フィスコでは、今後より一層FSCCの海外での知名度向上を目指し、ビジネスの拡張とその利用促進、FSCCを扱う取引所数やその売買高向上という好循環を推進していきます。

※2020年12月14日付「[フィスココイン\(FSCC\)がHotbitに上場](#)」

※2020年12月21日付「[フィスココイン\(FSCC\)がFinexBoxに上場](#)」

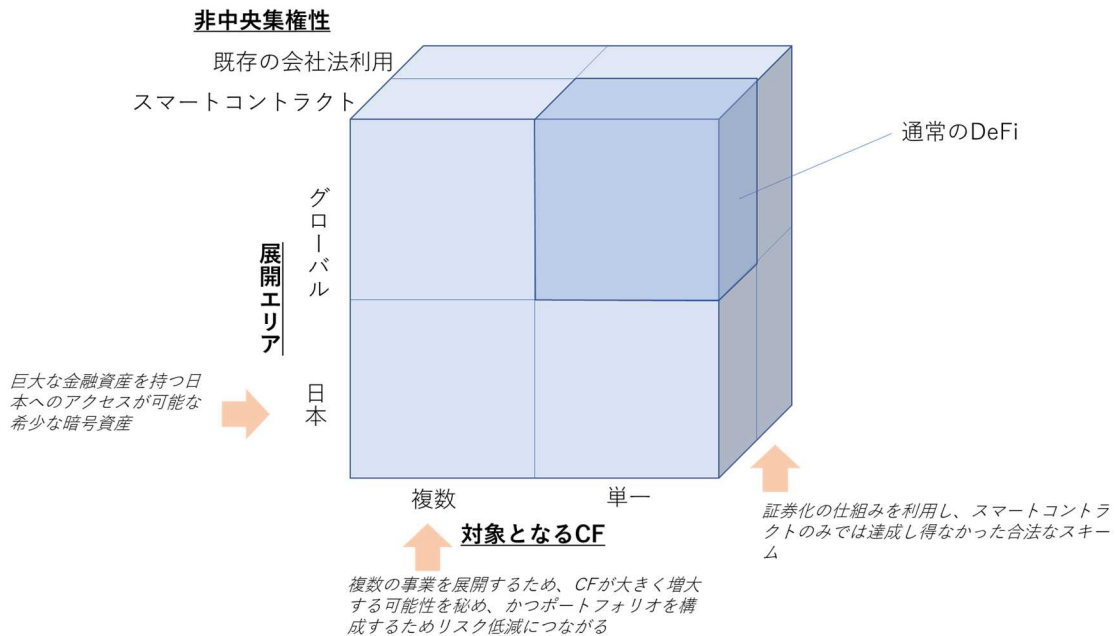
また、ビジネスのCFを裏付けとするだけでなく、FSCCが決済手段として様々なシーンで利用されることで、FSCCの価値向上を意図しており、企業のみならず利用者もメリットを享受できるような「フィスココイン(FSCC)経済圏」の形成を目指してまいります。

現状、FSCCはフィスコのレポート物販サイトであるクラブフィスコでの決済手段として採用されていることに加え、株式会社クシムの子会社イーフロンティアが運営するイーフロンティアストア、株式会社ネクスグループ、株式会社カイカ、株式会社e旅ネットでも決済通手段として採用され、法定通貨よりも2割ほどディスカウントされた価格で商材を購入することが可能となっています。外食産業へのFSCC決済化も果たすなど、着実に決済手段としての利用可能範囲が広がってきています。

FSCCを保有している方が暗号資産を所定の期間ロックアップすることでリワードを得ることができる仕組みに係るステーキングアプリケーションの開発に着手しましたが、これはFSCCユーザーがフィスココイン(FSCC)経済圏への積極的な参加を通じて利益を享受できる仕組みであり、FSCCの価値向上にも寄与すると考えております。(※)。

※詳細は「[FISCO Decentralized Application Platform 設計概要書](#)」参照。

■フィスココインの特徴



「[FISCO Decentralized Application Platform 設計概要書](#)」でも記載の通り、FISCO は通常の DeFi と比較して、図のような特異なポジショニングとなっています。通常の DeFi はスマートコントラクトのみで構成された完全な非中央集権性を有することが多く、かつ単一ビジネスから CF が創出され、グローバルに展開されることが多い状況です。一方、FISCO においては日本を展開エリアとしていることから、スマートコントラクトを活用しつつも既存の法令に準拠して設立された事業主体 (FDAP 社) を DApps の運営主体として活用する仕組みが構築されており、FDAP 社が運営する複数ビジネスから CF が創出されることとなります。

その日本で DApps を運営する場合、かつ DApps が管理者のいない分散型アプリであった場合、以下のような疑問に対する回答が不明確になる可能性があります。

- 事業の実質的な所有者は誰か。
- DApps に関する事業所得や仕入に対する報酬の支払い等について損益計上した場合に、これらの損益は誰に発生し、誰が納税するのか、利益や損失は投資家への分配金として分配されるのか。
- DApps の意思決定に利用されるトークンはガバナンス・トークンの特性を持つのか。
- トークン保有者がトークンを支配していると判断された場合、連結や課税の問題が発生する可能性。
- 事業体が存在しない場合、たとえそのような形態が適法であっても、安定した事業運営が可能なのか。
- 取引リスクについては、誰が責任を負うのか、誰が説明責任を負うのか。

DApps に係るフレームワークが日本で最初に作られたとしても、上記のような疑問は避けられません。民法、商法、会社法、金融規制、税法・会計その他適用法令への対応という観点からも、完全に分散化された DApps を開発する上で解決しなければならない課題は多いと考えます。そ



News Release

のため、日本において完全に分散化された DApps をすぐに導入することには問題があります。しかし、既存の法令に準拠して設立された事業主体である FDAP 社を DApps の運営主体として指定することで、分散化が弱まる可能性はあるものの、これらの課題の多くに取り組むことが可能になります。

また、FSCC は、上場企業であるフィスコ社が発行するトークンで、Zaif Exchange の取り扱い暗号資産として暗号資産交換業者登録簿に登録された暗号資産の1つです。日本国内でも類似のトークンが少ない状況であり、巨大な金融資産を持つ日本へのアクセスという意味で、稀有な暗号資産となります。

更に、単一でなく複数のビジネスから CF が創出されることで、単一ビジネスの失敗が DApps の失敗につながらない仕組みとなっています。

【株式会社フィスコの概要】

会社名:株式会社フィスコ <http://www.fisco.co.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 2482 号

加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会

所在地:東京都港区南青山五丁目 13 番 3 号

設立日:1995 年 5 月 15 日

資本金:100 百万円(2020 年 11 月 30 日現在)

代表者:代表取締役社長 狩野 仁志

事業内容:金融機関、投資家、上場企業を支援する各種情報サービスの提供